

自 己 評 価 表

学 校 名 愛媛県立大洲高等学校

学校番号 32

教育方針	<p>国家社会の有為な形成者としての資質を養うために知性を高め、心身ともに健康で豊かな人間性と創造力を備えた人間を育成する。 生徒の興味・関心・能力に応じた進路実現を目指し、社会の変化に主体的に対応し、社会貢献できる人材を育成する。</p>	重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 常に向上心を持たせ、自ら学ぶ態度を育成する。 2 地域とともに歩む、活力のある魅力を持った学校をつくる。 3 優しい心と誠実な人生観を持った生徒を育てる。 4 知性を磨き、心身ともに健康で社会貢献のできる生徒を育成する。 5 創意をいかし、国際感覚の豊かな生徒を育てる。 6 読書や芸術に親しませ、豊かな感性を培う。
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 習 指 導	授業の充実	内容の精選に努め、生徒の主体性を生かした分かりやすい授業を実践する。	A	生徒が主体的に取り組める授業を各教科で工夫し、分かりやすい授業が実践できた。	協働学習への理解を深め、思考力や判断力、表現力を高める指導を工夫する。
	教科指導の研究	研究授業に積極的に参加し、教科指導の専門的技量を高め合うとともに、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の研究と実践に努める。	B	アクティブ・ラーニング推進研究指定校を利用し、グループワークやICT機器を積極的に取り入れた授業を実践することができた。	1年間のアクティブ・ラーニングに関する技術を更にスキルアップし、生徒の学力向上に寄与する。
	生徒の皆勤率向上	1か年皆勤率70%以上、3か年皆勤率50%以上を目指す。	C	1か年皆勤率、3か年皆勤率共に目標に届かなかったが、改善している。	ホームルーム活動や総合的な学習の時間と連動し、キャリア教育の充実を図る。
	ホームルーム活動・総合的な学習の時間(良知)の充実	ホームルーム活動・総合的な学習の時間(良知)の内容を精選し、生徒が協働して主体的に取り組めるよう創意工夫する。	B	年間計画に基づき適切に実施できた。各学年で工夫した新しい取組も見られた。	実施内容の精選に努め、更に生徒に還元できるような新しい取組を工夫する。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	進路指導の充実	就職・進学共に第一志望合格率100%を目指す。	C	就職は100%、進学は目標を大きく下回っている。	早い段階で志望校を明確に意識させる。
		国公立大学合格者を志望生徒数の60%以上、難関国立大学合格者数10名以上を目指す。 就職内定率100%を早期に目指す。	B	就職内定率は100%である。 難関大合格者は2名(現役)で、国公立大学合格者は53名である。(前期まで)	難関大学を含めた国公立大学への対策を、個別指導も含めて長期的な展望を持って実施していく。
		家庭学習時間は1・2年生は3時間以上、3年生は4時間以上を目標に、計画的に学習に取り組ませる。	C	各学年とも目標時間より1時間程度学習時間が少ない。	サマーセミナーを通して、家庭学習の習慣化を図る。
生徒指導	生徒指導の充実	教職員の共通理解を図り、連携して指導にあたる。	B	全般的に学年団、生徒課など連携した指導ができた。	HPなど利用し、保護者との連携を図る。
	規範意識の向上	基本的な生活習慣の確立を図り、特に、礼儀、授業態度、清掃、身だしなみ、情報モラルについて指導にあたる。	B	あいさつ、身だしなみなどおおむね良好である。	教育活動全般を通してに細やかな指導体制を整えていく。 スマホの取り扱いについて指導体制を整える。
	交通安全指導の充実	安全意識の高揚に努め、交通事故0を目指す。 自転車通学生のヘルメット着用率100%を目指す。	C	登下校中の事故が7件発生したこともあり、まだまだ指導体制が不十分である。	通学路の安全確認など交通指導の方法を再点検する。
	教育相談課の充実	欠席状況や各種調査等から不適応傾向生徒の早期発見に努め、関係者と連携協力して対応する。	B	ホームルーム担任を中心に、学年主任、養護教諭、スクールライフアドバイザーが協力した。本人、保護者の考えに応じて対応した。	生徒の悩みに応じた適切な教育相談が行えるように研修を行う。さらに外部機関を活用した支援体制を整える。
特別活動	部活動の充実	いじめ、体罰等がない充実した部活動運営を行う。 部活動加入率95%を目指す。 全運動部の県総体出場を目指す。	B	ほとんどの部活動が活動計画に沿って熱心に活動できている。	文武両道を実践するための活動体制を整える。(部活動規定の見直し)
	学校行事の充実	生徒、教職員が協力して取り組み、活力ある学校行事にする。 地域を元気付ける藤樹祭にする。	A	生徒が主体となり、特色ある学校行事(藤樹祭)が実施できている。	生徒負担など細かい改善点を検討する。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
安全管理	緊急時の対応	防災、安全意識の向上を図る。 緊急時の対応及び避難方法を全員に周知徹底する。	A	原子力防災訓練、シェイクアウトえひめなど年3回の防災避難訓練を実施することができた。	各機関との連携をさらに深めるとともに、緊急時に素早く対応できる実践力を養いたい。
	安全点検	毎月の安全点検を継続して行う。	C	施設・設備の補修をその都度事務課と連絡を取りながら行った。清掃活動を通して、環境整備を進めた。	安全点検の意義を理解し、周知徹底を図るために、全職員に対して呼びかけを強化すると共に、自発的な取組を通して、安全意識の向上に努める。
保健管理	健康教育の充実	生徒の健康状態を把握し、事後措置を徹底する。 生徒の健康に関する自己管理能力の向上を図る。	B	受診が必要な生徒については、個別指導によって事後措置を徹底することができた。保健だよりや生徒保健委員会活動を通して、健康についての意識の向上を図った。	個別の保健指導を丁寧に行い、迅速に事後措置が完了できるよう努める。 生徒保健委員会活動をより充実させ、健康教育の啓発に努める。
組織運営	職員会議	職員会議の運営を計画的に適切に行う。	B	計画通りに実施できた。学校評価では91%を超える教職員が適切であると答えている。	会議を円滑に進めるため、議題の精選に努める。各種会議も時間の設定を工夫する。
	校内組織の充実	教職員間の意思疎通を図り、連携・協力体制を確立する。	B	校務分掌の構成は学校評価では昨年度より大きく下がり71%が適切と評価している。	校務分掌が効果的に機能するためにも、各課・学年での話し合いの機会を増やし、教職員間のチームワークを強化する。
図書	朝読書の充実	学校全体で、朝読書に積極的に取り組む。	B	朝読書の時間には、ほぼ全員の生徒が取り組んでいた。	図書館の書籍についての情報発信を増やし、図書の本を活用することによって、全員が朝読書に取り組めるようにする。
	図書館の活用	各学年、ホームルーム、教科との連携を図りながら、年間貸し出し冊数一人当たり6冊以上を目指す。	C	ホームルームや教科で積極的に図書館を活用するなど連携は図れたが、貸出冊数は目標を達成できなかった。	朝読書用の学級文庫を廃止し、適切な本がないときは、朝貸出ができるようにして、図書館を活用する習慣をつける。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
研 修	校内研修	相互の授業参観や校内授業研究を年間計画に組み込み、教職員が積極的に参加する。教科会を充実させる。	B	校内研究授業ではICTの活用やアクティブ・ラーニングの研究実践がみられた。相互の授業参観は、ほぼ目標を達成できたが、さらに積極的な参観が望まれる。	プロジェクトなど設備の充実を図り、ICTの活用やアクティブ・ラーニングの研究実践ができる環境を整える。相互の授業参観ができる期間を工夫し、参観できる機会を増やす。
	自己研修	校外研修への積極的な参加を促し、教科に関する指導力、授業力の向上等を図る。	B	例年より校外研修の参加が増加した。	研修の情報を的確に伝え、さらに多くの教職員の研修参加を促す。
	公開授業	ホームページ等で周知し、参観者が増えるようにPR活動などを工夫する。	C	文書やホームページで周知し、一応の成果があった。	公開授業期間の周知徹底を図るとともに、各課と連携を図り、実施期間や内容を工夫する。
教育 目標	目標設定	本校の実情や生徒の実態に合った教育目標を設定する。	B	学校評価アンケートにおいて、適切であるという評価は、教職員(94%)に比べて保護者(84%)の評価が低い。	今後も生徒の能力・実態に合った、地域に根ざした教育目標を設定していく。
	生徒と保護者への周知	生徒や保護者に対して教育目標の周知を図る。	B	学校評価保護者アンケートでは74%が適切であると、昨年、一昨年とほぼ同じ評価であった。	P T A月報・P T A総会・ホームページ等を活用して周知徹底を図る。
情報 提供	情報提供	ホームページや毎月配付するP T A月報の内容を充実させ、学校の情報を積極的に公開する。	A	ホームページは更新回数も多く、内容も充実しており、大変好評である。	魅力あるホームページになるよう情報提供に工夫を凝らし、地域から応援してもらえる学校づくりに努める。
	保護者との連携	生徒の学校生活がさらに充実したものになるよう、P T Aとの連携を深める。	B	連携が十分取れていると感じる保護者の割合は61%と昨年度より少し低い数値であった。	三者懇談や家庭訪問等の機会を確保し、十分な理解を得られるようにする。必要な場合は適宜家庭訪問や面談を実施する。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
人権・同和教育	いじめ対策	いじめの早期発見を心掛け、いじめや差別のない明るい学校づくりを目指す。	B	全校集会において、「いじめSTOP愛顔の子どもフォーラム」を鑑賞しいじめ防止意識を高めることができた。	いじめ防止の意識について、さらに啓発機会を多くして、保護者にも理解と協力をお願いする。
	人権・同和教育の充実	生徒人権委員会の活動を活発化し、保護者・地域との連携を強化する。	C	人権委員会の聞き取り調査や大洲喜多地区の各校の交流学習会を継続し地域との連携がはかれた。	一昨年12月に成立した「部落差別解消推進法」の主旨を年間計画の中に位置づけて、ホームルーム活動でも、その教材化に取り組む。
教育環境	教育環境の充実	美化活動を企画・実践し、安全で快適な教育環境づくりに努める。	C	毎日の清掃活動や、生徒会による美化活動を通して、校内の環境づくりを進めた。併せて、PTA保健専門委員会による中庭整備を行った。	学校評価での生徒や保護者の意見を基に、改善を加えていく。毎日の清掃活動や生徒会の美化活動を徹底する。建物自体の老朽化や劣化を点検、補修を重ねることで補う。
	職場環境の充実	広報活動を通して、健康への関心を喚起するとともに、仕事に充実感や満足感が持てるような環境づくりを進める。	B	健康相談室だよりを活用し、健康への意識向上に取り組んだ。毎月の衛生委員会で教職員の要望などを取り上げ職場環境の改善に生かした。	より仕事のはかどる職場環境を目指し、環境整備への協力を呼びかける。また、全職員からの要望を吸い上げ、対応することで、施設面での改善を図る。